

## 『現象学年報』リニューアル案概要

2021年11月7日  
日本現象学会編集委員会

### 従来通りの点

- スケジュールは変わりません（研究大会後の一定期間に投稿を受け付けます）。

### 主要な変更点（第39号 [2022年11月末頃投稿メ切、2023年11月発行予定] より）

- 大会での発表と投稿が切り離されます。
- 審査方式が大幅に改められます。
  - ダブル・ブラインド方式を採用します。
  - 審査結果が4段階になります。
    - ◇ 不採用
    - ◇ 修正の上再投稿（再査読は一回のみ）
    - ◇ 条件付き採用（査読コメントに応じて修正した原稿を掲載。修正のチェックは編集委員会で行う）
    - ◇ 採用（原則として、誤字や誤記の修正を行っただけの原稿を掲載する。ただし、査読コメントに応じた修正をすることは可能とする。修正のチェックは編集委員会で行う）
  - 採点が7点満点に変わります（これまでは10点満点）。
- 査読の質向上に努めます。
  - 編集委員会は査読者と投稿者を仲介する役割に徹します。
  - 委員会外の会員に「査読専門員」を依頼し、査読に参加していただきます。
  - 必要と判断された場合には、会員外の方に査読を依頼します。
  - 査読のガイドラインを作成し、公開します。
- 字数制限が緩和されます（字数の多寡は審査に影響しません）。
  - 註と文献表込みで10000字以上20000字以内（日本語）
  - 註と文献表込みで5000語以上10000語以内（英独仏語）。
- キャリアの多様化を踏まえ、奨励賞の対象基準を改めます。
  - 当該年度の4月1日時点で、以下の条件のいずれかを満たす者による投稿論文を審査対象とする。
    - ◇ 40歳未満
    - ◇ 大学院在学中
    - ◇ 課程博士号取得から5年以内